



今注目の一艇

ポーランドの大型造船所が送り出す優雅なカタマランクルーザー

サンリーフ70パワー



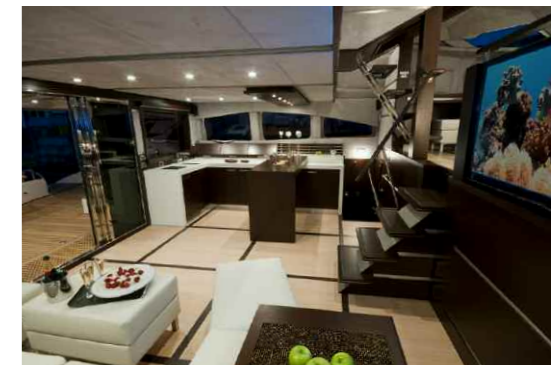
サンリーフはポーランドのグダニスク造船所から分離したCYSインターナショナル社がプレジャーボートを製造する際に使われるブランド名。2000年創業の会社は今まで、大型のヨット製造を行ってきたが、世界的なヨット人気の減少やパワーボートの人気により一年前よりプレジャーボート市場に本格参入している。このグダニスク造船所はナチスドイツが建造した造船所を1945年に再建、稼働させた由緒ある会社である。余談だが1980年には造船所の独立自主管理労働組合「連帯」による労働運動が、そしてポーランドの民主化、さらには東欧革命の扉を開いたことでも知られる。その「連帯」委員長の

ワレサ氏は、同造船所の電気工であったことでも知られている。なお、造船所自体は1996年に一度倒産するが、1998年に再建されている。

そんなCYS社がアメリカのチャーターボート市場向けにモダンデザインが施されたエレガントな70フィートカタマラン艇を製造、マイアミボートショーで発表している。フロリダの南部は世界でも屈指のクルーズボート市場として知られ、日本でも広く知られる飛鳥や日本丸のような巨大クルーズシップが週末は10隻単位でマイアミ港を出航する様子が見られる。もちろんプレジャーボートもこのエリアでチャーターが可能。手軽なものだと船長のみを臨時で雇って



アフトデッキはまるでひとつの空間に仕上がっている。



アフトデッキから入ってすぐ左に軽食&ドリンクだけのための専用ギャレーが用意されている。



ヘルムステーション横に設けられた階段を下がるとマスターキャビンルームになる。



ヘルムステーション反対側にはソファセットが用意されている。



マスターキャビンには大型の窓が取り付けられているので、海を見ながら就寝が可能だ。



調理用のギャレーは別途用意され、専用のシェフが面倒をすべてしてくれる。



両舷にはそれぞれ寝室が用意され、こちらも大きな窓が用意されている。



ハル後部にそれぞれエンジンとジェネレーターが設けられている。



フライブリッジの広さはカタマラン艇ならではの、4名が入れるジャグジーも注目の。



フライブリッジのヘルムステーションはシンプルだ。周囲のソファはボートの性格を表している。



ウェットバーとバーベキューグリルもあるので、ここでの食事もうれしいだろう。



油圧のクレーンが用意されているのでPWCの積み卸しもラクだ。テンドーも別途用意されている。

自艇の40フィートクラスでバハマでクルーズという余暇も人気だし、ボートから食事などすべての面倒をみてくれるクルーもセットになったチャーターボートも高い人気を誇り、世界各国からボート遊びを楽しみに多くの人がやってくる。

こういう市場でチャーターされるためにサンリーフ70は造られている。基本は8名のゲストでの使用が前提。専属のキャプテンとシェフが面倒を見てくれる。そのためデザインコンセプトは「最高の楽しみ、究極のリラクゼーションとラグジュアリーな快適」でまとめられている。船内の基本デザインは自社によるものではなく、メガヨットの内装デザインをおこなっているフランスの会社にアウトソースした。そのプランをベースにCYS社が詳細な設計を行ったようだ。これにより、船内は実に不思議な空間に仕上がっている。この不思議というのはバランスが悪いとか居心地が悪いという意味ではなく、まったく正反対の印象を受けたということ。

そもそもこのサンリーフ70はカタマラン艇であるメリットを最大限に活かしており、その横幅は9メートル以上にもなる。そこに発生する巨大な空間にゴチャゴチャ詰めるだけのものを詰めました、という設計とはまったく違い、一個一個に余裕があるレイアウトが実に印象的なのだ。例えばメインサロンの入口の横には巨大なギャレーが設けられている。このギャレーはクルーズ中の食事を準備するためだけに用意されたのではなく、あくまでも巨大なウェットバーという位置づけ。実はFBにも別途バーベキューグリルを備えたウェットバーが用意されているので、正しくはセカンドキッチンとも呼ばばいいのだろうか!?ここに別途設けたのは、海で遊んでいるときや移動時に軽食や冷えた飲み物を手軽に取れるようにとの配慮から設置されている。

マスターキャビンもチャーターボートという性格上、巨大な一部屋を造るのではなく、マスターキャビンを2部屋設け、それぞれに独立した浴室とトイレを設けるという仕様になっている。このマスターキャビンは船体の前部に設けられ、海を望みながらのクルーズが可能だという心憎い配慮もされている。このように従来のワンオーナーとその家族や友人が占有するという概念を一切取り払い、不特定多数の臨時

オーナーがわがままに使うというテーマ設定がはっきりとしているからか、実に居心地がよい空間に仕上がっているのが本艇の最大の特徴と言えるだろう。これは仮にワンオーナーがこの仕様で遊んでも充分に楽しめるはずだ。最近はやりのイタリアンデザインでもなく、あるいはアメリカ的ななんでもかんでも巨大な設計でもない。いやらしさがまったくないコンテポラリーデザインを採用しているのはフランスの会社によるデザインが大きく寄与しているからだろう。その結果このボートの価値を大きく上げているのは間違いない。また同社が10年にわたってヨットを造り続けてきた「伝統」も上手に反映されているようだ。

他にも右舷と左舷にそれぞれ浴室・トイレが設けられたキャビンが用意され、別途キャプテンとシェフが使用するクルー用のキャビンも設けられている。メインのギャレーには巨大な冷蔵庫、冷凍庫、食洗機、アイスメーカー、オープン、電子レンジに加えワインセラーまでが設置されている。またカタマラン艇のフライブリッジは100フィートオーバーのメガヨット並の空間に仕上がっている。前述したウェットバーやバーベキューグリルに加え、アイスメーカー、ダイニングテーブルや日光浴場、あるいは4名が同時に入れるジャグジーが設けられている。油圧式のスイムステップもあるので、FBから水面にジャンプできるような遊びの工夫も目立つ。

エンジンにはキャタピラ社のC18(873馬力)エンジン2基を搭載、最大で26ノットの航行が可能。燃料は8,000Lのタンクが2基設けられ、低速航行による大西洋横断が可能なもの、本艇がいかに効率よく航行できるかの証でもある。ジェネレーターには25kWと27kWの2基を搭載し、余裕の電力供給がなされている。

愚問だが、本艇はチャーターボートという性格を考慮した上で設計されており、顧客の要望に合わせていかなる仕様に上げることができるのもCYS社の特徴。実際フランスには船内に畳と障子を設けた和風の部屋がある同社のカタマランヨットもあるという。いきなり本艇を購入とならなくても、まずはチャーター利用してみるのも面白いかもしれない。従来のコンセプトとはまったく違った雰囲気になった本艇、一見の価値は間違いなくあるはずだ。

サンリーフ70パワー

SPECIFICATIONS	
全長	21.45m
全幅	9.31m
喫水	1.53m
最大重量	65トン
エンジン	キャタピラC18(873馬力)×2
発電機	25kW+27kW
燃料容量	8,000L×2
清水容量	390L×4
ゲスト	8名
クルー	2~3名



CYSインターナショナル社のエフ。ぜひとも沖縄での使用を薦めたいという。



カタマラン艇ならではの特性を上手に使ったデザインが採用されている。



本艇はバハマ・カリブ海でのチャーターに今後使われるという。